

# 市長選挙出馬に当たっての思いについて

## 四 竈 英 夫



【質問】市長は再び市長選挙に立候補を表明されたが、4年間を振り返っての思いを伺う。

【答弁】【市長】この4年間、「市民の笑顔あふれる白石」の実現に向け、市政課題を先送りすることなく積極果敢にチャレンジしてきた。

しろいしサンパークのオープンや、スマートインターチェンジの地区協議会を開催できたことは、公約実現の一つと考えている。

また、ふるさと納税については、平成29年度の1千482万円から、令和元年度は5億6千473万円へと大幅に増額させることができた。

教育については、慶応義塾大学と埼玉県の共同による学力・学習状況調査をはじめ、さまざまな施策を実施することができた。

任期中は、新型コロナウイルス感染症への対応、昨年の台風19号被害の復旧、第六次白石市総合計画の策定など、一つ一つ丁寧に向き合ってきた。

【質問】本市の将来像をどのように描いているのか伺う。

【答弁】【市長】人口減少、少子高齢化が進む中、持続可能なまちであるため、地域経済の発展を図り、強固な財政基盤を構築する必要がある。

このことから、企業誘致を進め、活力ある地域社会の形成を図るため、未来の白石市を担う人材、地域を牽引する人

材を育成し、人づくりによるまちづくりを進めることが重要であると考えている。

### ◎児童・生徒の水の事故について

【質問】8月初め、柴田町の川で中学生が亡くなる悲しい事故があった。本市では水の事故を防ぐために、どのような指導をされたのか伺う。

【答弁】【教育長】6月の定例校長会において、児童生徒の水難事故防止について注意を喚起し、指導の徹底を指示したほか、夏休み前にも農業用水路、ため池、河川などの危険箇所を確認し、安全指導の徹底を図るとともに、水難危険箇所

の巡視を行なってきた。

### 【その他の質問】

#### ◎長期休校による児童生徒への影響について

#### ◎来年の卒業式について

#### ◎交通安全対策について

市長は、公設民営という対案を示し、刈田総合病院の存立を助け、市民に医療を供するこの連携プランに疑念を

# 白石市の財政と公立刈田総合病院の存立について

## 沼 倉 啓 介



お持ちのように見えるが、その最たる要因はなにか。

【答弁】【市長】疑念は一切抱いていない。

この連携プランは絶対に必要であり、何としても実行し、中核病院との連携を進めていく必要がある。

しかし、同時に刈田総合病院単体として、企業体として持続可能な病院となる仕組みをつくり上げていくことも大変重要であると考えている。

【質問】東北大学医学部は、民間が絡んだ場合は協力できないという議決を機関決定されている。民間が絡んだ考えを持ってば、絶対この連携プランは前に進まないと思われるが、いかがか。

【答弁】【市長】全国のさまざまな例も参考にし

ながら、引き続き仙南の地域医療を守るために、東北大学、宮城県からのご指導を賜りたいと考えている。

ただ、本市の財政状況において、これまでのような、例えば一般財源の10パーセントを超えるような非常に高い負担割合で拠出することは、どう考えても無理である。

【質問】繰り出しのやり方や運営の数字的な打ち合わせ、相談が今までなかったように感じられるが、いかがか。

【答弁】【市長】病院との話し合いについては、幾度となくさせていたが、埋まらない溝があった。

【質問】連携プランの基盤をつくりつつ、同時並行で本市の負担割合の見直しを検討していくべきではないか。

【答弁】【市長】創意工夫により、将来に多大なる負担を残さないよう、持続可能な病院をつくり上げていかなければと考えている。